

## 第63回国連女性の地位委員会 (CSW63) に出席して

理事、CSW日本代表 田中由美子

### ■概要

2019年3月11～22日、ニューヨークの国連本部において、第63回国連女性の地位委員会 (CSW63) の会合が開催されました。日本からは、首席代表、日本代表、外務省、内閣府、文部科学省 (NWEC)、厚生労働省、JICA、NGO、ユース代表等で構成される政府代表団が派遣されました。さらにNGOからは、約70名の参加がありました。この会合の事務局であるUN Womenによると、国連加盟国政府及び国際機関から約2,000名 (閣僚は86名)、市民団体から約5,000名が集いました。

### ■開会式

開会式では、ネイソンCSW63議長 (アイルランド) が、パリテ (Parite 男女同数) 達成までにあと100年くらいかかるが、政治的意思と決断が必要だと述べました。グテーレス国連事務総長は、近年女性の権利に対する世界的抵抗があり、声を上げた女性に対するハラスメントに対抗しなければならないと強調しました。ヌカカUN Women事務局長は、2020年がUN Women設立から10周年、北京行動綱領25周年、国連安保理決議1325の20周年、さらにSDGsの2030年達成目標に向けた最後の10年として重要な年になると指摘しました。

### ■優先テーマとレビューテーマ

CSW63の優先テーマは、「ジェンダー平等と女性・少女のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービス、並びに持続可能なインフラストラクチャーへのアクセス」でした。また、レビューテーマは、「女性のエンパワーメントと持続可能な開発の関連性」で、SDGsについて議論が行われました。

### ■一般討論 (General Discussion)

多くの加盟国・国際組織のステートメントでは、ジェンダー平等の推進に向けた意識や制度の改革、社会保障制度や教育機会均等などの社会インフラ整備、CSWなどを通じ国際社会が一体となって取り組むことの重要性などが強調されました。

日本代表からは、G20サミット、TICAD7の開催、SDGs首脳級会合に向けて次世代・女性のエンパワーメントを柱の1つとして掲げたSDGsアクションプラン2019、保育・介護の受け皿の拡大、教育の負担軽減、ひとり親家庭の支援、非正規雇用労働者の待遇改善、無償労働の貨幣評価、男性の家事労働や育児への参画、女性に対するあらゆる暴力の根絶への対策、ならびに国際協力を通じた安全で快適な公共交通、災害復興、国民皆保険への支援を行っていること、さらに3月には東京でWAW/W20を開催するなど、国内外においてジェンダー平等と女性のエンパワーメントに努めていることが発表されました。

閣僚級ハイレベルのパネリストには、バチレレ国連人権

高等弁務官 (UN Women元事務局長) が登壇し、「社会的保護の分野への予算措置は女性のエンパワーメントにつながり、女性に投資することは、ユニバーサルな社会保護の構築につながる。社会的保護の制度整備に予算を注入するだけでなく、予算の配分や執行に政治的意思が働くことが重要だ」と強調しました。

### ■合意結論 (Agreed Conclusions)

最終日に採択された合意結論には、社会保護、公共サービス、持続可能なインフラへの女性のアクセスの向上を確実にするために、予算が削減されたり、緊縮財政が行われたり、従来の保護レベルが逆行しないことを保証すべきであること、男女の異なるニーズを考慮し、運輸政策・計画が持続的、アクセスが容易、妥当な価格、安全、ジェンダー視点に立っていること、及び障がい者や高齢者にも使いやすいようになっていることを確実にすることなどが盛り込まれました。

### ■CSW64「北京プラス25」に向けて

2020年は北京行動綱領の採択から25周年にあたるため、次回のCSW64では「北京プラス25」のための協議が予定されています。そのため、本年中に各国政府は、それぞれの取組をレビューした報告書を作成し、国連に提出することになっています。日本では、内閣府男女共同参画局が中心になり、報告書作成作業が進められています。また、並行して、日本のNGOによるレビュー報告書も作成される予定です。

これまで、毎年膨大な時間と労力をかけてCSW会合で検討し議論してきた成果と未来志向のアプローチが、ジェンダー平等で持続可能、一人一人が生きやすい、多様な市民社会の形成に繋がっていくことを期待しています。



日本代表団



ケニア代表と筆者

## ジェンダー平等を主テーマにCSW63からCSW64へ

ジェンダー平等を中心テーマに第63回国連女性の地位委員会 (CSW) が3/11~22までニューヨークの国連本部で開催されました。史上最大規模になった今年の会議に参加された、立場の異なるお二方からの報告と、北京行動綱領が作成され、25年目にあたる来年の「CSW 北京会議+25周年」のテーマについてのニュースをお届けします。

### CSW63に参加して

大学女性協会国際担当理事 鈴木 千鶴子

第63回国連女性の地位委員会は、最終日の3月22日に優先テーマ「ジェンダー平等及び女性と女性のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービスへのアクセスおよび持続可能なインフラストラクチャー」について合意結論の発行を成果として幕を閉じた。公開された閉会会議が予定時刻を5時間遅れ夜の8時に始まったことから、合意に至る過程で各国の考え方や立場が例年にも増して強く主張されたと推測されたが、会議開始直後に副議長Ms. Koki Muli Grignon (ケニア)が大量の嫌がらせメールを受け恐怖を覚えたと言ったことを機に続いた議論の応酬を目の当たりにし、世界が一つにまとまるのが近年ますます難しくなっていると実感した。

そのような世界情勢の中で、私たち一人ひとりは何をどうすべきなのか、特に日本のNGO・NPO、市民社会は何ができるのか、託されている役割・使命はこれまで以上に重要になっているはずである。また、UN Womenが予てより必要性を唱え、3年前からCSWのプログラムに時間と場所が設けられ市民権を得たユース、この若者の参加に、勢い大きな期待が寄せられよう。

そこで注目されるのが、CSW会期中に開催されるNGO主催による400件に上るパラレルイベント、中でも日本のそれはどのようなものであったのか?振り返ると、とりわけ今年の若手の活躍は特筆に値するものであった。その一つ、日本YWCA主催の”Young Women’s Roles in Social Protection: Through Experiences in Japan”は、日本の性産業や性教育、性暴力などについて発表者それぞれが自身の身の回りの経験を基に事実と背景を学んだ上で、テーマに正面から取り組むものであった。結果、自分たちの役割を問い、提言に繋げるものとなっており、我々参加者も力づけられた。また、Asian Network of Women’s Sheltersと台湾のGarden of Hope共催の”Tripping the Balance:

Sexual Assault and Power Relationships”において、草野由貴さんは勤務先の性暴力被害当事者を支援するNPOの活動を通して行った調査研究から得られた知見を、データとインタビューの質的考察に基づき発表しており、課題解決に繋がる道筋を示し確たる貢献を果たしていた。このような日本人若者の活躍はサイドイベントでも見られ、大学女性協会若手支援の長谷川舞さんはデンマークの父親育休制度について適切な質問をし、日本の現状を打破するヒントとなる回答を主催者側から引き出すことができた。

今後、日本の市民社会の考えと行動を世界へ参入させて協働していくために、若手に倣い、我々一人ひとりが積極的に参加していくことが必要と感じた。



CSW63の様子



向かって右が筆者

## UN Women WEEKLY NEWS (5月6日発) 北京会議+25周年記念キャンペーン Beijing+25: Celebrating 25 years of championing women's rights

1995年の北京宣言及び行動綱領(北京行動綱領)は世界中の女性・少女のエンパワーメントを描いた未来志向のアジェンダです。中国北京で開催された第4回世界女性会議で189カ国政府によって採択されました。この会議はジェンダー平等提唱者の最大の集まりとして知られており、2020年は北京行動綱領が作成されて25年目にあたります。

UN Womenは北京行動綱領が社会全体にした約束を守るために政府や市民社会を動員する中心的役割を担っています。これは女性、男性両方にとって究極的に住みやすい、繁栄・平和・公正が実現した世界のビジョンです。

### ジェンダー平等は今始まる

今日の世界ではどこでも女性も男性も、少女も少年も、自分のため、またあまりにも長い間口を封じられてきたり、烙印を押されたり、辱められてきた人たちのために声をあげられるようになってきました。その多くは新世代に属しています。彼らは時をうまくとらえて新たな経済・社会・政治体制を描き出し、人権尊重、ジェンダー平等実現、だれも取り残さないことなどを訴えています。UN Womenは次世代の女性の権利アクティビスト



と、20年以上前に北京行動綱領の作成に尽力したジェンダー平等提唱者やビジョンを持った女性たちを一堂に集めようとしています。このような変革を起こそうとする人たちは、年齢やジェンダーにかかわらず、新しい全世代向けキャンペーン「世代間の平等:ジェンダー平等の未来を目指して女性の権利を実現」を通して女性のエンパワーメントという、いまだ達成されていない大切な仕事に取り組んでいきます。

世代間の平等キャンペーンでは以下のことが求められています。

男女平等賃金、無償ケアワークや家事の平等分担、セクシャルハラスメントや女性・少女に対するあらゆる形の暴力根絶、女性のニーズにあった健康管理サービス提供、政治への平等な参加、人生のあらゆる分野の意思決定への平等な参加

### 2020年一連の好機

2020年の北京宣言と行動綱領25周年記念は、グローバル規模ですべての人が参加できるイベントとして実施されます。UN Womenは一年を通して、21世紀の女性の権利運動に資する好機をとらえて活動していきます。

- 女性、平和、安全保障に関する国連安保理決議第1325号 20周年
- 女性・少女のエンパワーメントをつかさどるグローバルチャンピオンとしてのUN Women設立 10周年
- グローバル持続可能な開発目標(SDGs)5周年

(翻訳 理事 本田 敏江)

## 有識者からの応援メッセージ 国連ウィメン日本協会に 期待すること

新評議員 林 陽子

私は2008年1月から2018年12月まで、国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)の委員を務めてきた。任期中には国連ウィメンの誕生(2010年)という歴史的な出来事も身近で見ることができた。CEDAWと国連ウィメンというふたつの組織がお互いをどのように必要とし、どのような連携が可能なのか、CEDAWの委員全員が熱意と関心を持ち、試行錯誤を続けてきた年月だった。

女性の権利問題のエキスパートとして、世界中の政府が提出してくる国家報告書を読み、政府代表団と対話をし、NGOの意見を聴取してきた。その結果感じたことは「女性の地位が高い国の女性ほど、自分の国の女性は差別されていると怒っている」

という事実である。逆にジェンダーギャップ指数が大きく、女性の社会参画に問題の多い国では「怒る女」たちが少ない。残念ながら、日本もその典型の一つだと思う。日本社会が不平等であること、たとえば日本における男女間の賃金格差、女性議員の少なさ、ハラスメント法制の不在などの「事実」を知らない人が多い。

今年は、1979年の国連総会で女性差別撤廃条約が採択されて40周年にあたる。過去40年間を顧みると、日本では男女雇用機会均等法の成立(1985年)、男女共同参画社会基本法の成立(1999年)、DV法の成立(2000年)、刑法強姦罪の改正(2017年)など「女性に対する暴力」への取り組みに代表されるように、時代を画する動きがあった。

しかし、日本は人権条約の個人通報制度をひとつも批准していないこと、包括的な差別禁止規定と救済機関を備えた国内人権機関が存在しないこと、セクシュアル・ハラスメン



2018年4月、トロントでのW7会合にて。  
右から、三輪敦子さん、筆者、ヌカカ事務局長

トをはじめとする暴力禁止法制が未整備であることなど、世界のジェンダー平等の動きから大きく取り残されている。

国連ウィメン日本協会には途上国の女性支援を強化すると同時に、途上国と言われる国々がいかにジェンダー平等のための施策を充実させ、すばらしい人材を育成しながら先進国に猛追しているのかを、日本社会に紹介してほしいと思う。「女性が輝く社会」は今のままでは政府のスローガンで終わってしまう。実質を作っていくのは、私たち自身である。

## 寄付企業のご紹介

### ブルーベル・ジャパン株式会社

香水・化粧品事業本部

bluebell

ブルーベル・ジャパンは、海外のラグジュアリーブランドを中心としたプレミアムブランドを日本で展開するディストリビューターです。創業以来、たゆまぬ情熱とともに世界でも有数のブランドを国内で育ててまいりました。海外と日本の文化の懸け橋でもありたいと願う私たちは、ディストリビューターとしての役割にとどまらず、海外ブランド製品を通じてハイクオリティなライフスタイルを日本の皆様へ提供していきたいと考えています。

そのため展開するブランドの理念を大切に、時には寄り添いながら、日本でのブランドのイメージの構築から、プロモーション活動に至るまで実施しています。

今回、UN Womenとのパートナーシップを組むきっかけとなった、フレグランスメゾン「Bond No. 9 (ボンド・ナンバーナイン)」は、フランス生まれでニューヨーク在住のMs.ロリス・ラメが、ニューヨークのノーホー地区にあるボンド・ストリート9番地で2003年に創業しました。常に創造の源であり、愛してやまない偉大なるニューヨークの街へのオマージュをブランドの原動力とし、ニューヨークにある様々なエリアを香りでご表現し続けています。ブランドを代表する香り「セント・オブ・ピース (平和の香り)」は、9.11事件後のニューヨークの荒廃ぶりに心を痛めたラメ氏が、愛する街の復興を願い誕生しました。

2015年、ラメ氏は、パフューマーとして初めて国連女性平和賞 (UN Women Peace Award) を受賞しました。世界中で愛されている「セント・オブ・ピース」のキャンペーンを通じて、平和を願いながら寄付を行って

きた実績が認められた所以です。

私たちブルーベル・ジャパン株式会社が主要百貨店で展開するフレグランスカウンター「ラトリエ デ パルファム」も、ボンド・ナンバーナインのこの取組みに賛同しています。「セント・オブ・ピース」の香りを、平和への想いと共に日本国内に広めると同時に、定期的なキャンペーンを通じて、平和のために活動する団体や、女性の活躍を支援する団体に寄付を続けてまいりました。

今後もこの活動を積み重ねていくことで、微力ながら平和への活動や女性の地位向上に貢献していきたいと考えています。



セント・オブ・ピースのロゴ

## UN Women WEEKLY NEWS (5月3日発)

### ジャーナリストへの研修プログラム

私の視点:いかなるジャーナリストも物事を変えることに助けとなる力を持っていることを意識すべきである。

チサナ・マガルハエスは、定期的にジェンダー平等について報道する、カーボベルデ共和国出身のジャーナリストです。UN Womenの進めているトレーニングプログラムを受けて以来、彼女はメディアがジェンダーや人権問題について報道すべき責任を持っており、そのストーリーが人の生き方を変える可能性もあると感じるようになりました。

ジャーナリズムにおいてジェンダー問題の擁護者であるということは、地域で起こっているジェンダー問題についての現実を表すストーリーを報じなければなりません。そのストーリーは良い政策について、また改善する必要があることについても語るべきなのです。ジャーナリストとして、マイノリティや不公平に扱われている人々に対して声を上げることは、われわれの責務なのです。

ジェンダーはヒットするテーマではありませんが、私はいつもマイノリティが経験し、強調してきた不可視性や差別についての意識は持っていました。私がジャーナリストとして働き始めたころ、私はこの話題を社会に明らかにし、伝えるべき必要があると思うストーリーを報じてきました。

ここカーボベルデ共和国 (北アフリカ西沖合いの島国) では、メディアによって報じられた記事の影響は大きく、単に一般社会ばかりでなく、決定権を持つ



Chissana Magalhães

人々に対しても同様です。例えば、2年前私は市民の婚姻権に関するLGBTコミュニティの要求についてストーリーを書きました。そのストーリーは政界のリーダーがこの問題に対してはじめて市民の立場に立つ結果をもたらしたのです。同様に、地域社会もLGBTコミュニティを支援するためにいろいろなイベントを催し、記事に対して反応してくれました。

私は“世代間の平等”に関するトレーニングに参加して、ジャーナリストとして携えている力と責任を一層感じるようになりました。以前はジェンダーや人権問題についての記事を直感的に書いていました。

チサナ・マガルハエスは39才、カーボベルデ共和国のエクस्पレンソ・ダ・イルハ新聞社の記者。彼女はUN Womenが支援するLGBT、女性のリーダーシップ、政治的参加、国連キャンペーン“自由と平等”などのトレーニングプログラムに参加。そしてルクセンブルグ政府から援助された、性に関するオリエンテーションやジェンダーの本質についてのトレーニングプログラムを受けた21名のジャーナリストの一人です。

(翻訳 理事 岩城 淳子)

## 2018年度拠出金支援報告

2018年度の拠出金は、総額4,899,250円となりました。ご寄付にご協力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

そのうち、2018年4～6月に実施しましたクラウドファンディング「ヨルダンのザータリ難民キャンプで苦しむシリア人女性たちを救済したい」での拠出金308,682円(2,766.96ドル)は昨年8月に送金し、シリア難民女性の自立支援に活用されました。通常の拠出金4,590,568円は、2019年5月に送金し、以下のプロジェクト等を支援します。

### ①バングラデシュのロヒンギャ難民女性自立支援プロジェクト 2,590,568円(23,302.77ドル)

UN Womenはバングラデシュ・コックスバザール地域で、ロヒンギャ難民女性・少女の自立支援プロジェクトを行っています。日本政府を始め多くの国と団体が支援しており、日本協会からの支援金は、女性たち

の職業訓練や憩いの場を提供する多目的センターの設立・運営に役立てられます。

### ②女性に対する暴力撤廃信託基金 1,000,000円(8,995.23ドル)

### ③UN Women本部コア資金 1,000,000円(8,995.23ドル)



多目的センターの生計支援トレーニングで刺しゅうを学ぶロヒンギャ難民の女性たち  
左は英国国際開発者派遣団

## 総会報告

2019年3月2日(土)11時から12時30分、婦選会館にて2019年度総会を開催し、2018年度の事業報告・決算、2019年度の事業計画・予算が承認されました。

次いで協力協定団体ネットワーク会議を開催しました。東京、多摩、よこはま、大阪、北九州、さくらの6団体が参加。事前をお願いした「組織・募金・広報活動と課題」をもとに各団体からの報告後、ロゴの使用や募金箱について、また会員の高齢化や会員募集等、共通の課題について、活発な意見交換がなされました。とくに自然災害募金やふるさと納税等、国内への募金が高まっている状況下、世界的規模かつ女性・少女の支援を目的とするUN Womenの活動に共感を得るためには、さらなる工夫と活動が必要であるとの認識が共有されました。

## 決算報告

国連ウィメン日本協会2018年度決算報告  
(2018年1月1日～12月31日) 単位:円

一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,615,000	拠出金	4,899,250
寄付金収入	7,648,439	事業費	39,099,485
資生堂と本部との事業		管理費	2,016,879
	30,000,000		
雑収入	74		
当期収入合計	40,263,513	当期支出合計	41,116,364

その他の資金

■収入の部	
利息	22

当期正味財産増減額 852,829  
前期繰越正味財産額 8,573,010  
次期繰越正味財産額 7,720,181

## 国連ウィメン日本協会の最近の活動から

### ●ホームページ「寄付する」項の改定

現在ホームページの全面的改定を進めていますが、そのうち「寄付する」項を一早くリニューアルしました。クレジットカードによるご寄付ができるインターネット決済を採用し、よりスムーズにより幅広く、皆様からのご寄付をお受けできるようにしました。

UN Womenのプロジェクト紹介の欄は適時更新していきますので、ぜひ、以下のサイトを訪れて、ご寄付にご協力いただくようお願いします。

<http://www.unwomen-nc.jp/donation/>



心理社会的カウンセリングを受けるベナンの暴力のサバイバー女性たち



水へのアクセス権と管理を獲得したキルギスの農村女性

## 協力協定団体の活動

### 国連ウィメン日本協会 北九州

3月26日(火)、北九州市男女共同参画センタームーブにおいて、2019年度国連ウィメン日本協会北九州総会を開催し、2018年度の事業報告及び決算報告、2019年度の事業計画及び予算が承認されました。

今年度は、当会がユニフェム北九州として設立されてから25周年となるため、記念事業を行うことや、昨年作成したリーフレットを活用して会員の拡大に努めることなどが確認されました。

また、空席となっていた会長には、公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム専務理事の柴田邦江氏が選任されました。

総会後には、日本協会理事の木下彰子氏から、日本協会総会の内容や世界の動きについて報告していただきました。

今後も、関係団体の皆様と連携を図りながら、充実した活動ができるよう取組んでいきたいと思ひます。

事務局 鷹取典子



### 国連ウィメン日本協会 大阪

4月6日(土)、クレオ大阪中央にて、国連ウィメン日本協会大阪の総会を開催し、2018年度事業報告及び決算報告、2019年度事業計画及び予算が承認されました。

総会では、会員拡大に向けた広報のあり方や、今後のイベントについてなど、会員の皆様と活発な意見交換を行いました。

総会後には、『G20大阪サミットに向けた女性活躍促進』(スピーカー:国連ウィメン日本協会大阪 会長

三輪敦子、事務局 岸上真巳)をテーマにセミナーを開催し、多くの方にご参加いただきました。セミナーでは、2019年6月に大阪市で開かれる主要20か国・地域首脳会議(G20サミット)に向けて、国際女性会議WAW!/W20やC20の場に、どのように市民団体が関わり、どんな女性/ジェンダーの課題が話し合われているのか説明されました。

事務局 長栄くみ子



### 国連ウィメン日本協会 多摩

今年の総会は2月17日(日)に府中市で行いました。総会後には、アメリカで長年DV支援をしていて、この度帰国された信国遥さんからのアメリカのDV被害者支援の現状の話をお聞きました。2日前から来日していたモンゴルキルトセンター主宰者のセレンゲさん(写真)からは「キルト製作技術の支援のおかげで、今では貧しい女性だけでなく、男女を問わず障害のある人たちも合わせて3,000人の自立につながっています」という報告を受け、多摩有志が15年間技術指導、販売、支援をしてきたことが多くの人たちの自立の道を拓いていることを確信しました。

最後には、演劇、歌の世界を目指す高校生の烏田鈴緒さんと榊原あみさんが「人形の家」の主人公ノラが家を出る場面を熱演。穏やかな歌声も聞かせてくださり充実した総会になりました。

事務局 小川裕未



## 国連ウィメン日本協会 よこはま

昨年は10月のセミナーに続き、11月にはチャリティコンサートを戸塚さくらプラザで行いました。「オペラとダンス・トークで紡ぐ午後のひととき」と題し、オペラ歌手松井美路子さん、澤崎一了さん、ダンス滝沢由佳さん、ピアノ緒方宏子さん出演で、オペラのアリアからデュエットそしてトークにダンスと大いに楽しみました。本年3月9日、12回目となる国際女性デーは吉本芸人のビスケットティをゲストに招き、「SDGs」について楽しく考えようという企画を立てました。来場者とのクロストークも加わり「SDGs」を短時間ながら知ってもらう良い機会になりました。また大幅に増やした出店ブースに加え、チアダンスありヒップホップありパルーンアートありとこれまでにない盛り上がりを見せました。

ショップ部会 西村洋子



## 国連ウィメン日本協会 東京

国連ウィメン日本協会東京では、2019年度総会を2月5日に開催、UN Women日本事務所パートナーシップ専門官の齋藤文栄さんをお招きし、「UN Women日本事務所の役割とこれからについて」とのテーマでお話を頂きました。日本事務所は、①広報とアウトリーチ、②パートナーシップの構築、③啓発行動の3つの役割を担い、国や企業とどう関係性を構築していくか、パートナーシップと資金の調達を主な仕事とし、日本政府からの拠出をアドヴォケイトするべく政府に働きかける役割が課せられているとのことでした。ジェンダー平等運動HeForSheキャンペーンについてや、グテーレス事務総長の下で国連の改革が進んでいる様子、3/23~24に亘って開催のWAW!/W20などについて学ぶ事が出来ました。本年度も当会では、支援の実際に対する知見を深めるべく連続

講座の開催や、民芸の檜山文枝さんの朗読会を開催する予定です。

会長 城倉純子



## 国連ウィメン日本協会 さくら

私たちは正会員である一冊の会と共に国連の流れに沿って啓発活動を続けております。

3月22日(金)には憲政記念館講堂で、「講演と音楽の夕べ」を開催し、世界銀行東京事務所上級広報担当官である大森功一氏にお越しいただき、「世界銀行とSDGs」というテーマで講演して頂きました。現在世界の人口は76億人。2100年には112億になると推測されています。地球も私たちも多くの課題に直面すると言われております。SDGsは途上国のみならず先進国自身が取り組む全世界の目標です。

持続可能な日本・世界のより良い未来のために、主にSDGsの『5.ジェンダー平等を実現しよう』『16.平和と公正をすべての人に』という目標を掲げ『自分に来ることは何か』と常に考え、今後も取り組んで参ります。

広報担当 城杉清佳



## 事務局からの報告

### ■マンスリー寄付のお願い(個人の方のご寄付)

個人の方のご寄付では、インターネットを通じて、毎月定額を継続しての寄付(マンスリー寄付)ができます。一回手続きをしていただければ、毎月定額を継続して寄付していただくことができる仕組みです。

月額1,000円、2,000円、3,000円、5,000円の4つのコースから選ぶことができます。国連ウィメン日本協会ホームページからアクセスをお願いします。

◎マンスリー寄付、インターネット寄付はこちらから

<https://kessai.canpan.info/org/kokurenwomennihon/>



### ■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくか、ホームページでもお申込みいただけます。

【年会費】個人 1口 5,000円

団体 1口 10,000円



### ■寄付者一覧(前回掲載以降2019.5.31現在)

鹿野京子 木原直子 能登美香子 中川裕士 花見伊登子 橋本ヒロ子 粕井慎次郎 衛藤榮津子 小野啓子 山里璃沙 山崎友子 星野利香 本田均平 本田敏江 鷺見八重子 佐藤想子 岩城淳子 籾内麻貴 周欣宇 梅沢幸代 今井公美子 森川利浩 瀬尾幸男 大山行雄 船津丸隼人 鈴木千恵子 神野千代 望月浪江 上田恵美 戊井真理 伊藤繁 花田久美子 飯田恵美 北井久美子 藤本純子 橋本香 岡島敦子 大川紀代子 小園誠 石坂佳子 久家道子 出口律子 大友作太郎 小笠原崇嗣 山崎利恵 山内理絵 弓削寧奈 四家井千英 RYU SIA Akiko Kinoshita 吉川敦子 星野友佳里 伊藤悠美 榎本和 竹本和永 新谷はる香

永谷多光 待寺友里 齊藤亜美 上里町女性会議 ブックオフコーポレーション(株) 彩歩の会 全国友の会 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ (株)読売新聞東京本社 国連ウィメン日本協会北九州 国連ウィメン日本協会大阪 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会東京 国連ウィメン日本協会よこはま ビューティショップKブルーベル・ジャパン(株)

### ■ブックオフ宅本便寄付(前回掲載以降2019.5.31現在)

上岡美代子 八重崎聖子 磯野未夏 青木一郎 東金久美子 松尾エイコ 伊藤有佳 上鶴瀬典子

### ■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

### ■正会員団体16団体(前回掲載以降2019.5.31現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会 国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (公財)横浜市男女共同参画推進協会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協会多摩 全国友の会 (株)高島屋 (公財)イオン1%クラブ 国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会東京 国際ゾント26地区 (一社)大学女性協会

### ■正会員個人38名(前回掲載以降2019.5.31現在)

### ■賛助会員団体13団体(前回掲載以降2019.5.31現在)

日本生活協同組合連合会政策企画部 にいがた女性会議 (公財)せんだい男女共同参画財団 久留米市男女平等推進センター 越谷ミズの会 (株)グッドバンカー (株)電通 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団 (株)リコー (株)フジテレビジョン 国際ゾント姫路ゾントクラブ (株)クロスメディア・ランゲージ 特定非営利活動法人ウィメンズアイ

### ■賛助会員個人148名(前回掲載以降2019.5.31現在)

新規入会:細井さやか 石川玲花 山内理絵 渋谷典子 松永尚哉 山崎員世 白根芽久美

以上、敬称略

## <認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

### 事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL.FAX. 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <http://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

